

5月、すがすがしい季節が始まったと思えば、月末には記録を更新するほどの夏日となりました。温暖化の影響による気温上昇は、今後も続いていくのでしょうか。新学年となり、学校生活も本格化する5月という初春にも熱中症対策をしていかなければならなくなりそうです。温暖化対策を自分自身の問題として、考えていかななくてはなりません。

さて新元号「令和」。残念ながら生徒の予想の中にあたりはありませんでした。ひと月の準備期間があり、学校現場でも元号の変更は問題なく進められたと思います。「令和」は万葉集の「梅花の歌」がもとになっているそうです。

「初春の令月にして、気淑く（よく）風和ぎ（やわらぎ）、梅は鏡前の粉を披き、蘭は佩後の香を薫らす。」

春の初めのよき月に、気持ちよく、風も和らいでいて、梅の花は鏡のまえでおしろいをはたく（お化粧する）女性のように白く美しく咲き、蘭の花は香袋のように香っている。という意味だそうで、良い始まりを意味しているそうです。

さて、百合丘の令和元年度のスタートはどうでしょうか。

やはり体育祭です。今年から熱中症対策として、体育祭を9月から5月に変更しました。試験の配置や学校生活のリズムの保ち方を考え、中間テストよりも前の5月実施としました。

昨年度の変更決定に生徒の間にも不安が広がり、生徒の士気を高めるために2月には、臨時に放送にて、団長とともに当時の1, 2年に語りかけました。その後3月、団長を中心に結団式を行い、4月、新入生を迎え、色別集会を開き、体育祭へと生徒たちは準備を重ねました。

年度が変わり、4月12日から昼休みに演舞の練習が始まりました。昼休みが始まると、一気に生徒たちが階段を駆け下り、指定された練習場所へ行きます。練習に励む声が聞こえ、踊りを教えるリーダーの声が響き、予鈴前には生徒とたちは解散し、また教室へ駆けあがっていく光景が続きました。午後の授業にかかることなく、決められた時間の中で、ゴールに向かって、まとまっていく様子は、本当にほほえましく、あたたかな気持ちになる光景でした。練習時に熱中症を心配することもなく、過ごしやすい気候の中準備を進められたと思います。

そして体育祭当日。今年からは「応援」採点も始まり、競技中も団で応援合戦を繰り広げ、その団結力は今までにはないものだったと思います。もちろん演舞も見事に完成していました。

大きな変化を迎えた体育祭でしたが、まさに令和のごとく、すがすがしい気候の中で、4色の法輪が見事に咲いたスタートになったと思います。

変化を自分たちのものにし、次の世代につなげていってくれた。そんな風に体育祭を成功させてくれた百合高生に、心から、エールを送ります。

百合高の未来は、安泰です。